

令和2年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	正答率が区平均同等もしくは、やや下回る傾向にあります。2年生は、「話す・聞く」力が学年相当程度身についています。3年生は、「書くこと」において区平均と同じぐらいです。4年生は、辞書の使い方について6割以上が理解が不十分でした。5年生は、「読む」力を問う問題の正答率が低いです。6年生は、漢字、「書く」問題での正答率が低いです。
社会	5, 6年生の正答率が、区平均同等もしくは若干上回る項目が多いです。全国平均値も上回っています。1つだけ、5年生は「社会的事象についての知識・理解」において、0.8%区平均を下回っています。
算数	正答率が概ね全国平均と重なるかもしくは、上回る傾向にあります。区平均に対しては、下回る項目が多くなっています。2年生は、「数学的な考え方」に課題が見られます。3年生は、概ね九九は身につけていますが、繰り下がりなどの技能に課題が見られます。4年生は、数学的な考え方を問う問題の正答率が低いです。5年生は、半数の項目が区平均を上回っていますが、図形や概数に課題が見られます。6年生は、基礎的な問題の正答率が低い結果でした。
理科	5, 6年生は、区平均同等もしくは、上回っています。5年生は、「ものの体積と力」「電気の働き」において平均値を4～5ポイント上回っています。6年生は、「電流の働き」「花のつくりと実」「天気の変化」「ふりこのきまり」において、区平均を5ポイント以上上回りました。4年生は、特に「植物の育ち方」は14.3ポイント「身近な自然の観察」は12.4ポイント「こん虫の体のつくり」は11ポイント下回っています。

本校の教育目標

- ① よく考える子《知》
自ら考え、すすんで学ぶ子
- ② 助け合う子《徳》
自分も相手(友達)も大切にして認め合い、協力する子
- ③ たくましい子《体》
心も体も健康で、粘り強く取り組む子

本校が児童に育成したい力

- 基本的学習内容の定着85%達成
- 語彙を増やし、豊かに表現する力
- 進んで伝え、高め合う対話力
- 協働して問題を解決する力

学力向上にかかわる経営方針

- ・学習規律の徹底
- ・「学習の地図」(ねらい・見通し・振り返り)を明確にした授業づくり
- ・合理的配慮に基づいた特別支援教育
- ・対話活動の工夫を重視した授業改善の推進
- ・語彙を増やし豊かな表現力を育てる言語活動の充実
- ・外国語活動の授業改善
- ・ICTの活用
- ・「たきみ小スタートカリキュラム」の実施

校内における学力向上推進体制

- 少人数授業の計画的な実施
- 指導体制の充実
- 授業力を高める教職員の研修の充実
- 朝の時間の「算数タイム」「朝学習」「朝読書」
- 「学力フォローアップ教室」の実施
- 1～4年のモジュール学習

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○基礎的・基本的な内容が確実に身に付くように、繰り返し学習や少人数指導などの工夫をします。 ○自ら考え、解決できる力を形成するため、問題解決の機会を増やします。 ○「伝え合う」言語活動の充実を図ります。 ○学力PU講師・学級経営支援員、学生ボランティア等を活用し、個に応じた指導を充実します。	○火曜日の朝に算数タイムの時間を設定し、反復練習を行い、算数の基礎・基本の習熟を図ります。 ○金曜日に朝読書の時間を設定し、学習の基盤となる集中力や言語力・思考力の育成とめざします。 ○週4回、各15分間のモジュール学習時間を設け、主に1～4年生の国語の基礎学力定着を図ります。(5・6年生は外国語活動)	○テーマを「進んで伝え合い高め合う児童を育成する単元づくり～話す・聞く力を伸ばす指導の工夫を通して～」とし、国語科での授業改善を進めます。「話す・聞く」力を伸ばすための学習過程を工夫して単元作りを行い、お互いに進んで伝え合い、高め合う児童を育成することを目指します。	○児童の学びを具体的な姿から見取り、その過程でしっかり価値付けたり、励ましたりします。 ○日常の授業で小テストや座席表などの補助等を活用した個別の評価をつみ重ねて、学習の状況を把握していきます。 ○「適正な評価の実施」や「個人内評価の活用」などを通して、評価したことを指導に生かしてまいります。	○家庭学習の定着や地域ボランティア(田植え、芋掘り、読み聞かせ)の活用を進めます。○スポーツフェスタ、学習発表会等の実施、ブログの更新、保護者会等で、児童の学習活動の様子をお知らせします。○学校便りを4ページにして、活動が伝わるようにします。○学校評議員およびPTA、児童館・学童クラブ等関連機関との連携を深めます。